

『救いを実感してこそ平安！』 詩篇116篇1～9節 2018.9.9 聖日礼拝説教より

『まことに彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。…しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。』
イザヤ書 53:4～5

詩篇 116:7『(主が)良くして下さった』は、『乳離れさせた』の意。乳離れしていない子はとても手がかかる！それは不安で孤独で満たされない心の大人も同じ。「乳離れした子」は日々の関わりの中で「ママといれば大丈夫と悟り、その基本的信頼を土台に平安を持つ。天の父の救いへの絶対的な確信があつてこそ「乳離れした信仰者」となる。あなたは魂が安らぎ、嵐の中でも安心か？

①救いは神から…詩篇 116:12 の「神へお返し」を考える前に、神が私たちのために何をなされ、何をくださり、どういふお方なのかを考えたい。最大の恵みは「罪の赦し(I ヨハネ 4:10)」。父なる神は、罪の道連れで闇に向かう私たちに目を留め、憐れみ、私たちが求める前、悔い改める前、信仰を持つ前から救いを用意された(ローマ 5:8)。神から呼ばれてこそ私たちの魂は呼び覚まされ、神から手が伸ばされてこそ、罪人の私たちは救いを掴むことができる。

②神の救いを深く悟る…聖書を通して私たちは、神が何をなされ、何をしておられ、これから何をされるのか(過去・現在・将来の救い)を知る。その救いを正しく理解すれば、何をすべきかがわかる。神は、十戒の前に、まずご自身の救いを宣言された(出エジプト 20:2、申命 5:15)。「救う神／救われた私たち」という関係が明確であればこそ神の戒めに従える。救いへの感謝とその御愛に応えたい気持ちがあればこそ。詩篇 116:8 は神の救いの見事な要約。①魂を死から(罪と永遠の滅びからの救い)。②目を涙から(心の傷、流した涙…全てご存知の方の慰めと癒し)。③足を躓きから(日々、主の御前で罪から守られる)。この神が語られる「わたしのもとに来なさい…休ませてあげます(マタイ 11:28)。明日の心配は無用(マタイ 6:34)。思い煩うな(ピリピ 4:6)」。信じる者を必ず救われる方ご自身こそが憩い。

③救いに応答する…神は互いの「和解・仲直り(II コリント 5:20)」を懇願される。「愛は寛容(I コリント 13:4)」の「寛」には「赦し」の意も。滅びから救われ、涙を拭われ、日々罪と悪から救われた時、隣人との愛・赦し・和解のために喜んで働く(I ペテロ 4:7～9)。

★あなたは、今、魂が安らぎ、全ての隣人と平和だろうか？今、招きに応じて、この方の安息に戻ろう(詩篇 116:7・マタイ 11:28)！